

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300380		
法人名	有限会社 喜楽		
事業所名	グループホーム 喜楽		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘1丁目31番地		
自己評価作成日	平成27年 5月 19日	評価結果市町村受理日	平成27年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る手伝い(血ふきや洗濯物畳みなど)は都度促し、身体機能の低下を防止している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーや衣料品店、飲食店、医療機関等が立ち並ぶ通りに面しており、街路樹が植えられた広い歩道は小学校に通学する児童の通学路にもなっている。歩いて行くことのできる距離に系列のグループホーム喜楽Ⅱがあり、共同で行事やレクリエーションを企画して入居者同士の交流を図り、会議や研修を共同で開催するなどの協力体制を整えている。また、協力医療機関との連携を図り、往診だけでなく緊急時や看取りについても対応できる体制を整備している。ホーム内の共有スペースには入居者が作成した掲示物を貼り、季節を感じることができるよう工夫している。職員は、入居者の自立した生活とハリのある生活の実現に力を入れている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングなどを通じ、入居者が毎日安心して過ごせるように心掛けている。	職員がいつでも確認できるように、玄関や台所、事務所内の目につくところに理念を掲示している。また、会議等で実践について話し合う機会を設け、理念に沿った個別ケアの実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で、地域の区長、民生委員より近況や情報を交換している。	天気がいい日には、外気浴やホーム周辺の商業施設に買い物に出かけ、日常的な地域との交流を図っている。また、歌や踊り、マジックなどのボランティアを受け入れるとともに、こども110番の活動にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを希望されている企業や事業所などの方へ認知症に対し理解や支援の方法など、指導を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報提供交換などを行い、地域の方々との交流の場としても紹介して頂いている。	2ヶ月に1度開催し、会議ではホームから報告だけでなく、ホームの運営に協力的な区長や民生委員から意見や助言をもらうことができる。また、ホームの取り組みを地域住民に案内してもらう等、情報交換の場として活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者や家族に問題があった場合は連携、情報提供を行っている。 市主催の研修を通じて、情報を得ている。	市が主催する研修には可能な限り参加するようにしており、困ったことがある時には、運営推進会議の場だけでなく、市や地域包括支援センターに直接電話をかけるなどして相談・助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は実施せず、ベッド柵も四方を囲まない様に設置している。	玄関の施錠を含め、身体拘束は行っていない。身体拘束をしないケアに関する外部研修に参加し、持ち帰った学びをホーム内の研修を通じて職員全体で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や新聞等で得た情報をカンファレンス等で職員に周知し注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見人制度を利用している方がおられる為、制度や仕組みをパンフレット等を用い、学習し伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書内容を個々に説明をし、納得した上で署名、捺印を頂いている。 法改正等で変更があった場合も随時個々に説明し署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置、ご家族様面会時の声掛けにて現状、近況説明し、質問等あれば随時説明を行っている。	入居者からは、日常の会話の中から献立や行事について意見を聞き、可能な限り実現するよう取り組んでいる。面会に来る家族が少なく、ホームの運営に関する意見や要望を直接聞くことが難しい状況にある。	入居者の生活状況に関する写真入りの便りを家族に郵送したり、運営に関するアンケートを実施するなど、意見や要望を聞くための取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体カンファレンスを行い、問題点、改善点を現場の職員より聞き出し、より良いケアが可能となるように対応している。	全体カンファレンスにおいて、ホーム内の事例及び報告のあった事故や、ヒヤリハットに対する検討を職員全体で行っている。また、朝のミーティングや個別に職員から出された意見について、必要に応じて運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H27、4月より就業規則を一部変更し、職責等により、職員1人1人がスキルアップできる様な仕組みを取り入れた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加、伝達講習の実施、当施設に取り入れられる項目などを皆で検討し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学等にいられた他施設職員や研修で会った他施設職員とコミュニケーションにて資質向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と、スキンシップを取り、さりげなく希望や思いを聞き出せるような会話を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや希望、本人から家族への希望を直接確認し、可能な限り取り入れる様にし信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いや希望、本人の希望を直接確認し、可能な限り取り入れる様にし信頼関係を築く努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が間に入り、コミュニケーションの橋渡しができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会を促し、出来るだけ家族と触れ合える時間を増やす様に連絡お知らせをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前交流があった友人など、面会に来やすい環境を整え、いつ来られてもいいように対応、説明を行っている。	馴染みの人に自由にホームに来てもらえる雰囲気づくりを行うとともに、場合によっては一緒に出掛けられるよう支援を行っている。また、入居者の生活史を大切にケアの実践に取り組んでいる。	
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、コミュニケーションの橋渡しができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去など、今後も相談や家族のストレスを相談できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方や希望は出来る限り取り入れている。必要に応じ、家族にも協力を得る。	入居の際に本人や家族から趣味や嗜好について聞き取りを行いケアに活かしている。また、ホームでできることは可能な限り対応し、対応が困難なことは家族に依頼するなどして、入居者の思いが実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活歴を、本人や家族より聞き、出来る限り変化をつけずに生活できるように工夫し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックにて体調変化を見逃さないようにし、希望者は職員と買い物に出かけたりとストレスをためない様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員がモニタリングに関わり、計画作成の情報提供を行っている。	家族の面会時に意向を聞くとともに、往診や受診の際に医師からの指示を確認して記録している。また、月1回の全体カンファレンスや日々の実践のなかで出た意見を基に計画を作成し、職員全体でモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時介護記録に目を通し、気になる事や変化を、申し送りにて直接確認し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の事情や変化を把握し、出来る限り取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援、協力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される医療機関を優先し、対応している。 定期的な訪問診療及び24時間体制の医療連携を確保している。	家族の希望により、かかりつけ医の受診が可能である。また、往診が可能な協力医療機関が近くにあり、夜間や看取りに対応できる医療の連携体制を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師配備しているので、連携を取りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院のソーシャルワーカーとこまめに情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の指針を説明している。 家族と話し合い、希望があれば施設での看取りも行っている。	入居時に、本人・家族に対して指針を説明したうえで、入居者の状態の変化に応じて、その都度、本人・家族、医師、職員間で具体的な対応を協議している。また、職員の連絡体制の整備と、必要時は夜間の職員配置を増やす等の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス等にて職員に定期的に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、常に災害に備える心構えを持つように気をつけている。	訓練には消防署の立ち合いや、夜間想定での訓練を実施し、終了後には訓練の振り返りをして実際の時に備えている。毛布やライト、拡声器に加え、水や乾パンを常時備蓄している。また、年1回防災マニュアルについて説明し、風水害による避難についても対策をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格を考慮した上で、尊重しながら対応している。	同性による介助を基本として、排泄や入浴、更衣介助の際は羞恥心に配慮したケアを実践している。また、職員は言葉遣いや声の大きさに注意し、プライバシーを損ねないようにしている。	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がコミュニケーションを行い、希望や不満をいち早く察知し、少なからず選択肢を与え出来る限り希望を叶える支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の気分や、思いを確認し出来る限り希望を叶える支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者や家族の好みを考慮し、出来る限り取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを立てるときは希望を聞き、配膳や後片づけを手伝ってもらい信頼関係を得る努力をしている。	入居者の意見を聞きながら献立をたて、入居者が買い物や後片付け等に参加できるようにしている。また、バーベキューなどの季節ごとの行事に合わせた食事を提供するとともに、家族の協力を得ながら外食ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、水分は定期的に声掛けし、飲んで頂くように、お茶だけでなくジュースも含め提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや就寝時には職員が預かり洗浄を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に応じたタイミングで実施している。	排泄チェック表を作成して、入居者の排泄パターンを把握している。個別にトイレへ誘導し、排泄の自立に取り組んでいる。また、できるだけ食事や体操等の日中の活動を通じて排便を促すことにも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、個々に応じた対応を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施日には入居者に声を掛け希望する方は優先して入浴を行う。拒否される方もやさしく声掛けし定期的に入浴して頂いている。	入居者が希望する回数や時間の入浴ができるようにしており、足浴にも対応している。また、職員の変更や時間の調整、声の掛け方等の工夫を行い、入居者の個別性を尊重して安心して入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合った寝具をご家族に相談し用意して頂き、体調等に変化が出ない様にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬状をまとめ、常に職員が把握、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好みや意欲を聞き、出来る手伝いは協力して頂いている。拒否時は強要しない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の買い物や散歩は状況により職員同行で実施している。遠方は、家族の協力を促すよう希望を伝え、実施できる様調整を行っている。	近所の商業施設への買い物や散歩に出かけるなど、可能な限り入居者がホームの外に出かけられるよう支援している。また、バスバイクや、家族の協力を得ながら、外食や外出ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者は数千円程度を自分で管理している。買い物の際は自ら出されるが、家族に毎回了承を得るようにしている。大きなお金は持たせず、施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている入居者は自分で持っていない入居者は希望があれば施設の電話でお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作った季節ものの張り紙を貼り、エアコンに頼らず、窓を開け季節の風を感じて頂くように心掛けている。	広くて開放的な玄関や廊下には行事の写真や季節を感じる掲示物が貼られ、室内に居ても入居者が自然の風や光を体で感じることができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでも他者と会話される者どおしは出来るだけ近くでくつろげるように配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に決まりはないので、自宅から愛用品を持って来ていただき、出来る限り自宅と変わらず過ごせる環境を提案している。	居室は、使い慣れた家具を自由に持ち込むことができ、家族の写真や入居者が大切にしてきた物を置くなどして、それぞれの入居者にとって居心地の良い環境となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事を察知し、できることは声掛けし、個々の能力を下げない様に工夫している。		